

平成30年12月

平成30年	7月	～	9月期	実 績
平成30年	10月	～	12月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

主要景況項目の動き	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移 * 平成15年1月以降	23
〔集計資料〕	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

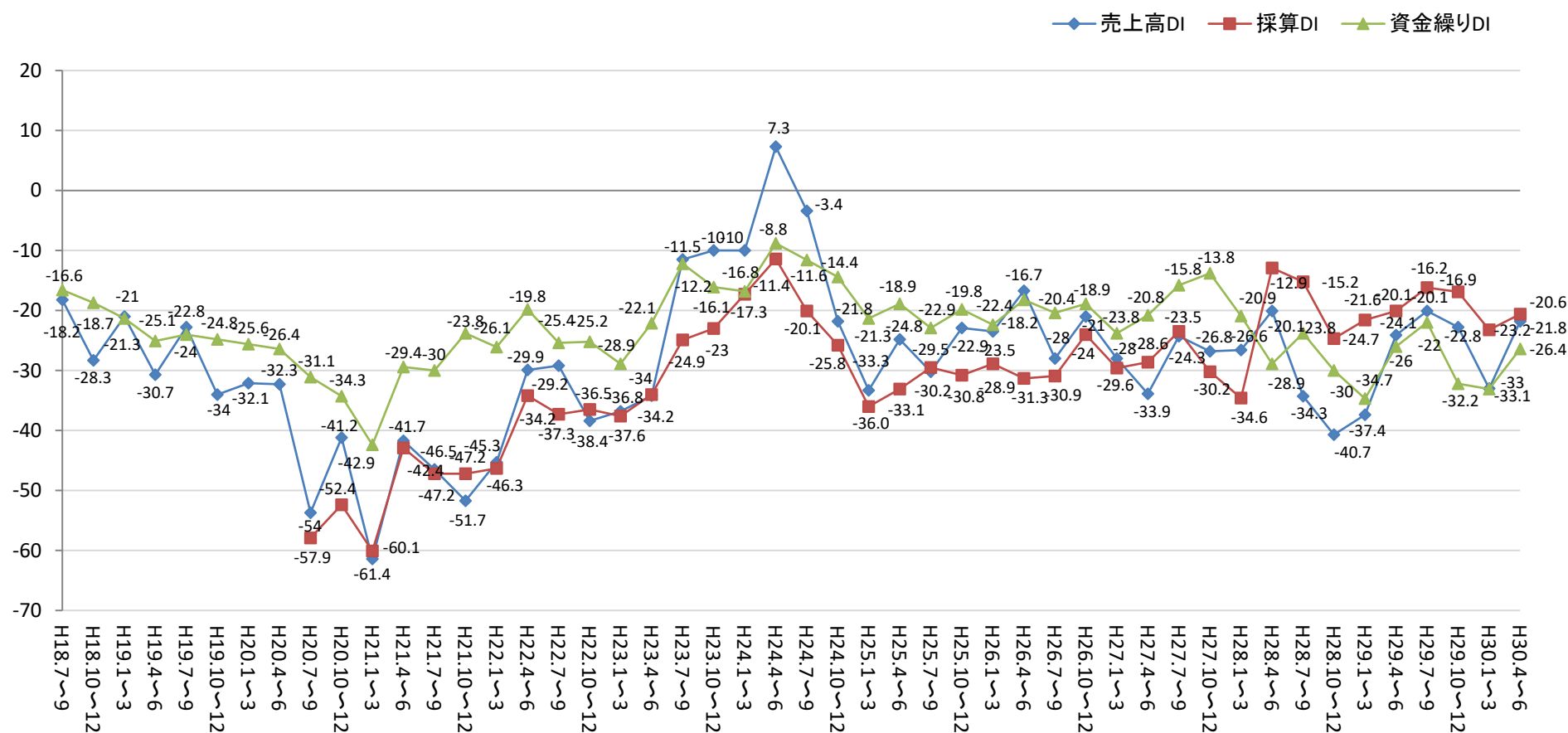
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、 $D・I = 50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き ー前年同期比ー



採算DIについては全国連にデータなし

業 況 天 気 図

業 種 \ 期 間	平成28年 10～12月	平成29年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	平成30年 1～3月	4～6月	7～9月	(見通し) 10～12月
製 造 業	 曇	 曇	 曇	 曇	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 曇	 曇
建 設 業	 雨	 晴	 曇	 薄 曇	 曇	 雨	 雨	 曇	 曇
小 売 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 曇
サ ー ビ ス 業	 雨	 雨	 曇	 曇	 曇	 雨	 曇	 曇	 曇

売 上 高 D I	100.0 ～30.1	30.0 ～10.1	10.0 ～△10.0	△10.1 ～△30.0	△30.1 ～△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

全産業の推移

売上高

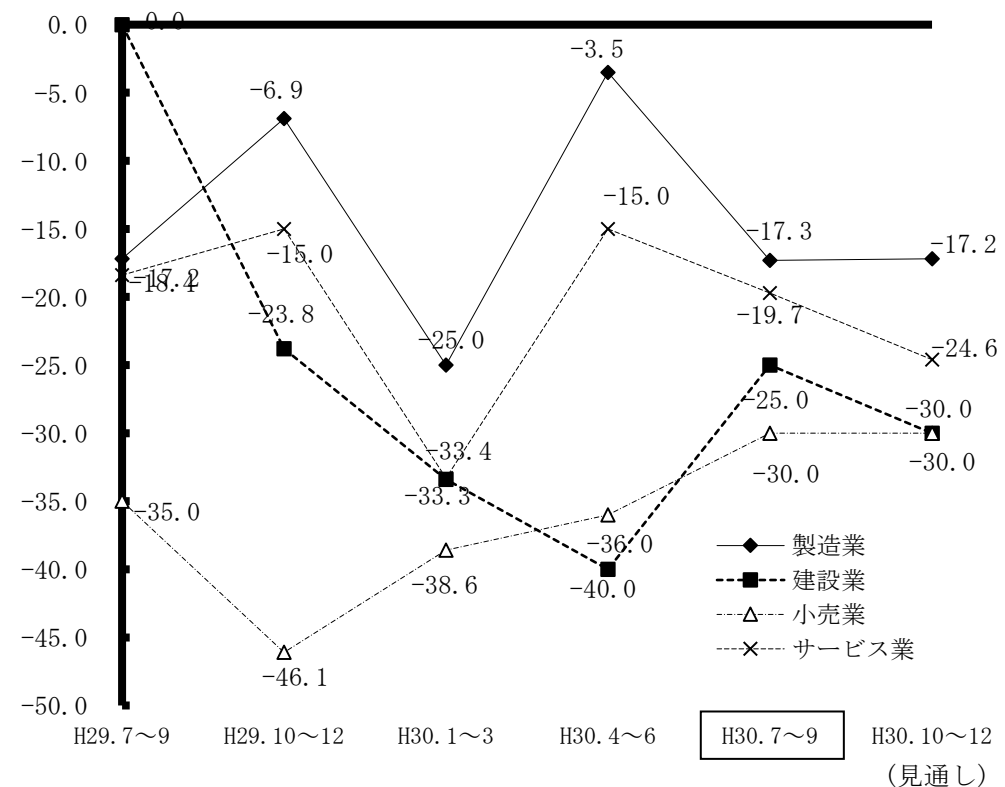
**建設業、小売業が増加
製造業、サービス業が減少**

今期は、3期連続して低下していた建設業が上昇に転じ、15.0ポイント増加して△25.0まで回復しました。また、小売業も6.0ポイント増加して△30.0となっています。小売業は3期連続の増加となり、H29.7～9期以降で最も高い水準まで回復しています。

製造業は、13.8ポイント減少して△17.3まで低下、サービス業も4.7ポイント減少しています。

来期は、今期大幅に上昇した建設業が減少に転じ、サービス業も2期連続して減少するものと予想されます。

また、製造業は横ばい、3期連続して増加した小売業も横ばいにとどまる見通しです。



※建設業の売上高は完成工事高

全産業の推移

採 算

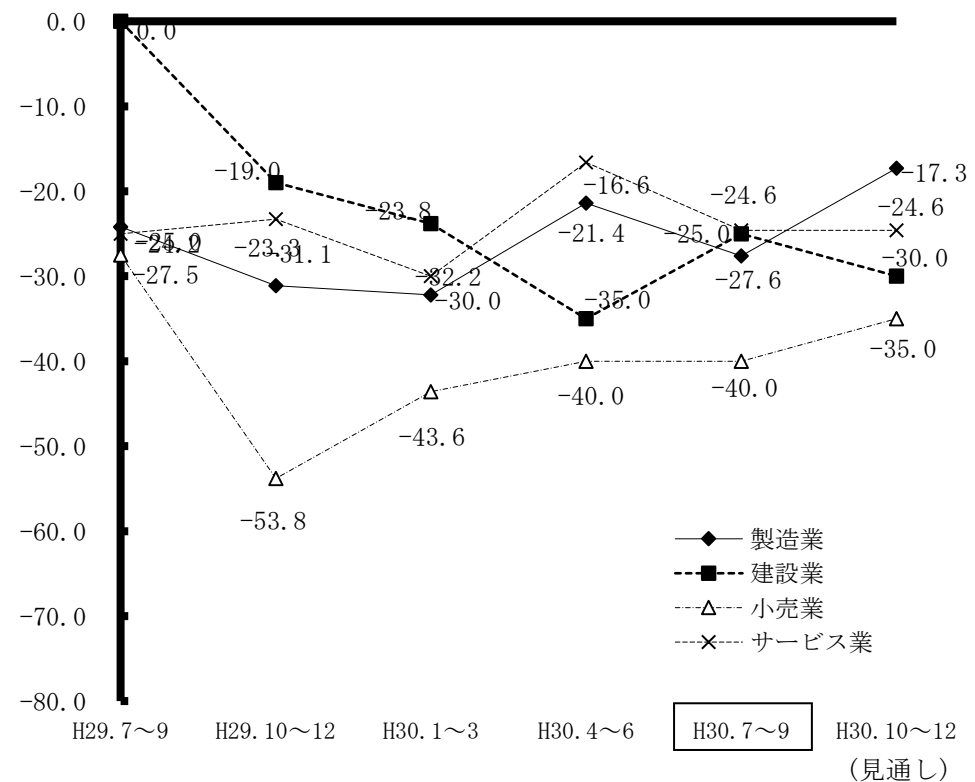
建設業が好転
製造業、サービス業が悪化

今期は、建設業が売上高D・Iの好転と連動して10.0ポイント増となり△25.0まで上昇しました。製造業は6.2ポイント減少して△27.6となりました。サービス業も8.0ポイント減少して△24.6となっています。

2期連続して増加した小売業は横ばいの△40.0にとどまっています。

来期は、製造業、小売業において好転することが予想されているものの、サービス業が横ばい、建設業においては悪化に転じるものと見込まれます。

※採算は各業種とも経常利益



全産業の推移

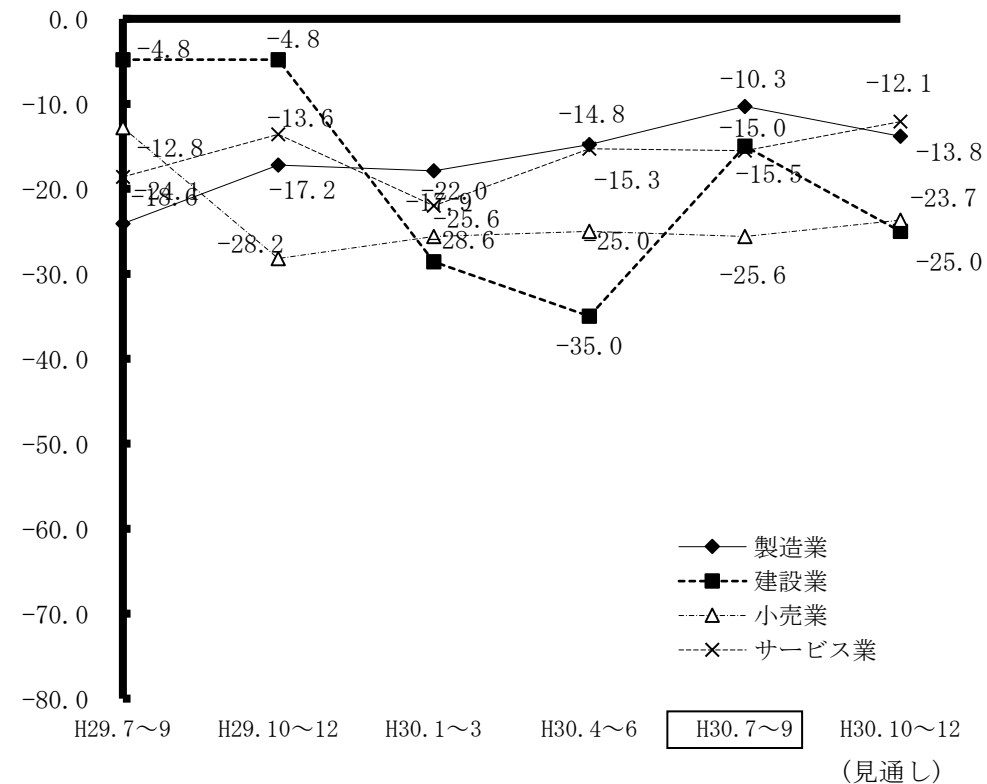
資金繰り

建設業、製造業が好転
小売業、サービス業が小幅に悪化

今期は、建設業が20.0ポイントの大幅な増加となり△15.0まで上昇しました。また、製造業も4.5ポイント増加して△10.3まで上昇しました。

また、小売業が0.6ポイント減少して△25.6となり、サービス業もわずかに減少して△15.5となっています。

来期は、建設業において大幅な減少が見込まれ、また、製造業も減少が見込まれますが、小売業、サービス業においては増加の見通しとなっています。



製造業の推移

売上高

<今 期>

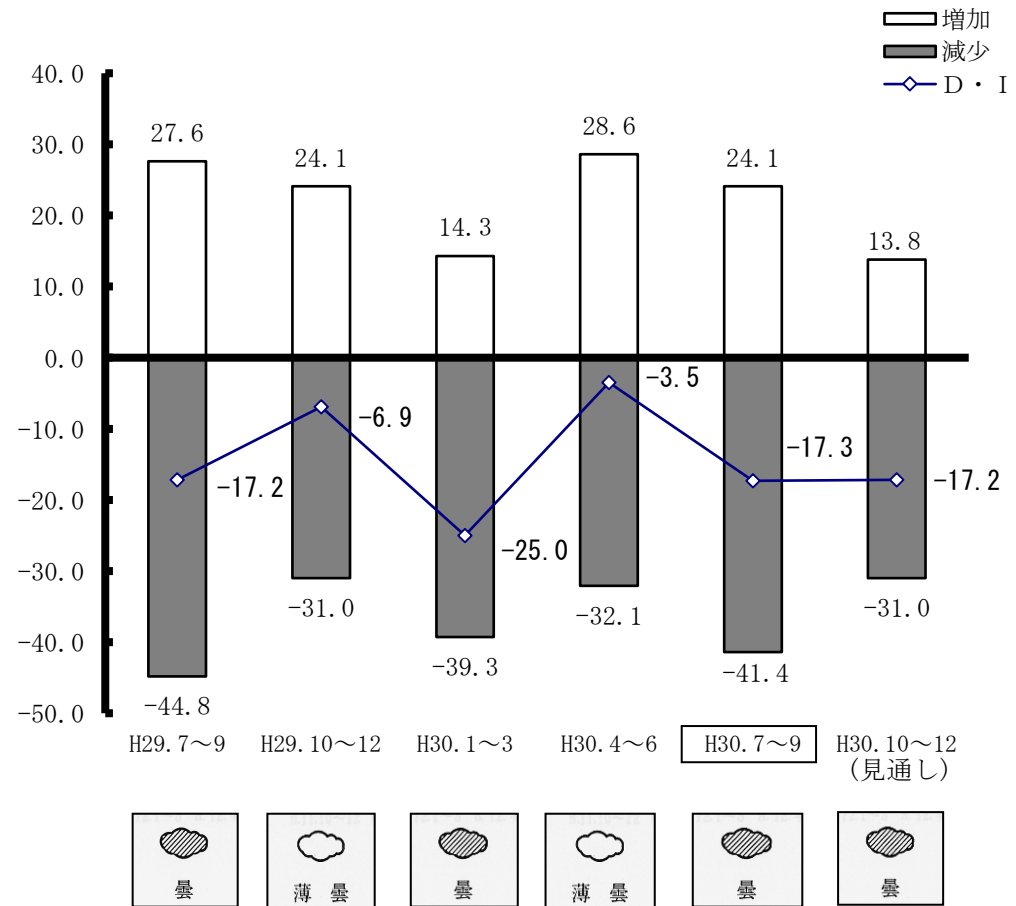


<来期見通し>



今期は、売上高が増加した企業割合が減少し、売上高が減少した企業割合が増加したことにより、売上高D・Iは13.8ポイントの大幅な減少となり、△17.3まで低下しました。

来期は、売上高の減少を予想する企業割合が減少するものの、売上高の増加を予想する企業割合も減少が見込まれ、売上高D・Iは、ほぼ横ばいとなる見通しです。



製造業の推移

採算

<今 期>

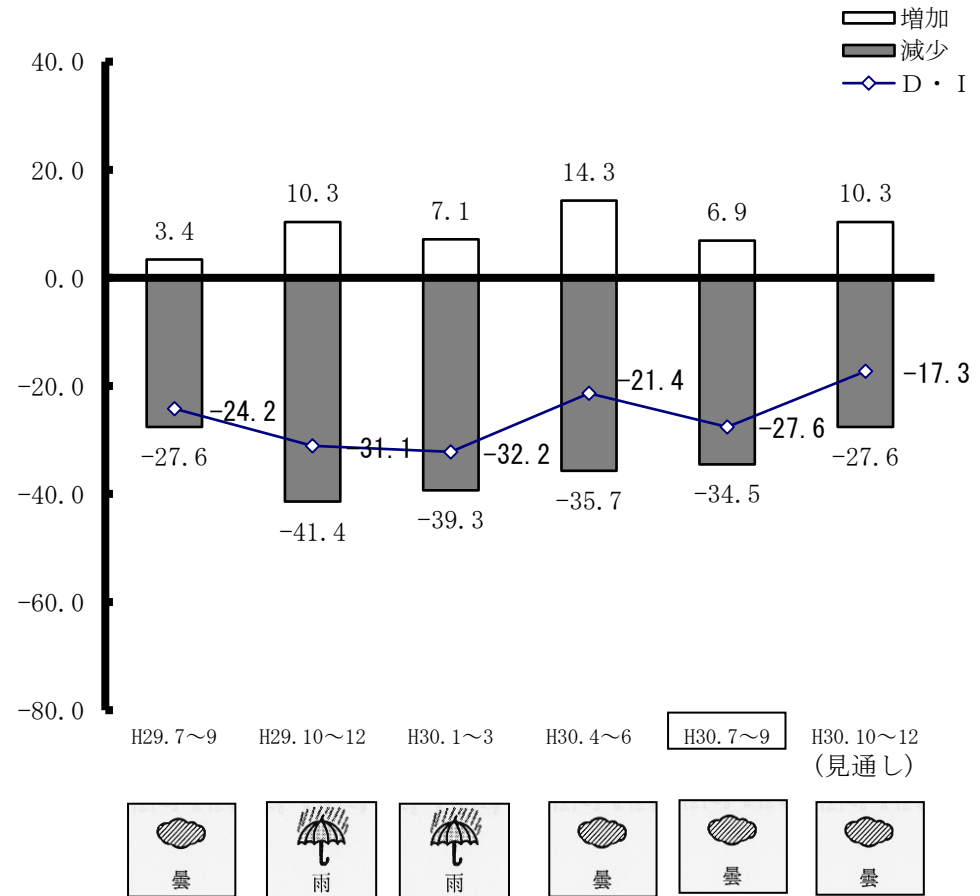


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が7.4ポイント減少し、採算が悪化した企業の割合が1.2ポイント減少したことから、採算D・Iは6.2ポイント減少して△27.6となりました。

来期の採算D・Iは、採算の改善を予想する企業が増加し、採算の悪化を予想する企業割合が減少すると見込まれることから、採算D・Iは好転する見通しです。

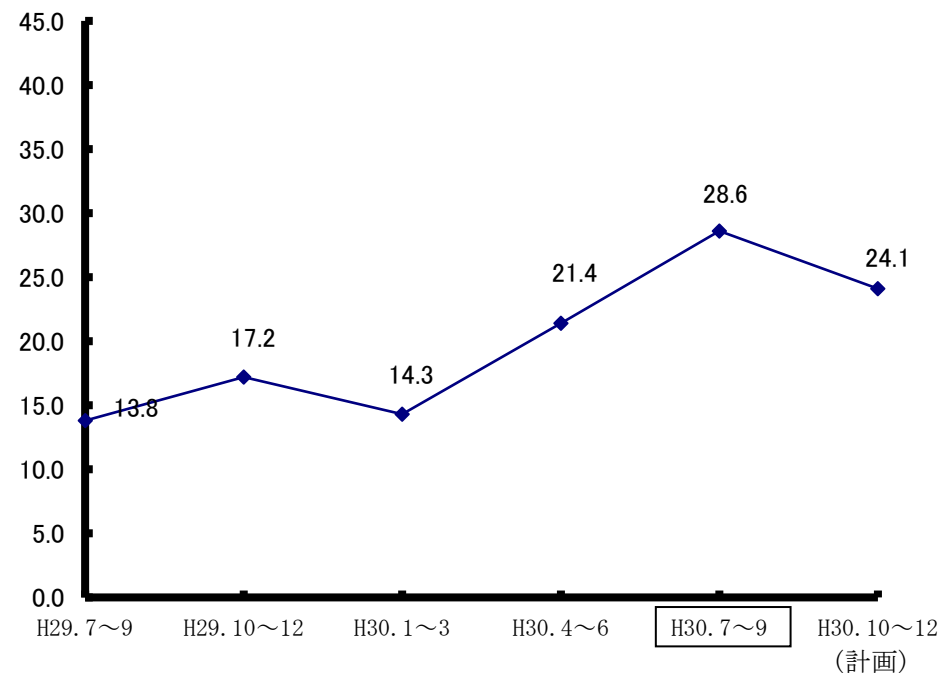


設備投資

今期は、設備投資を実施した企業数の割合は2期連続しての増加となり、H29.10～12期以降で最も高い割合となりました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は、減少に転じる見通しです。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

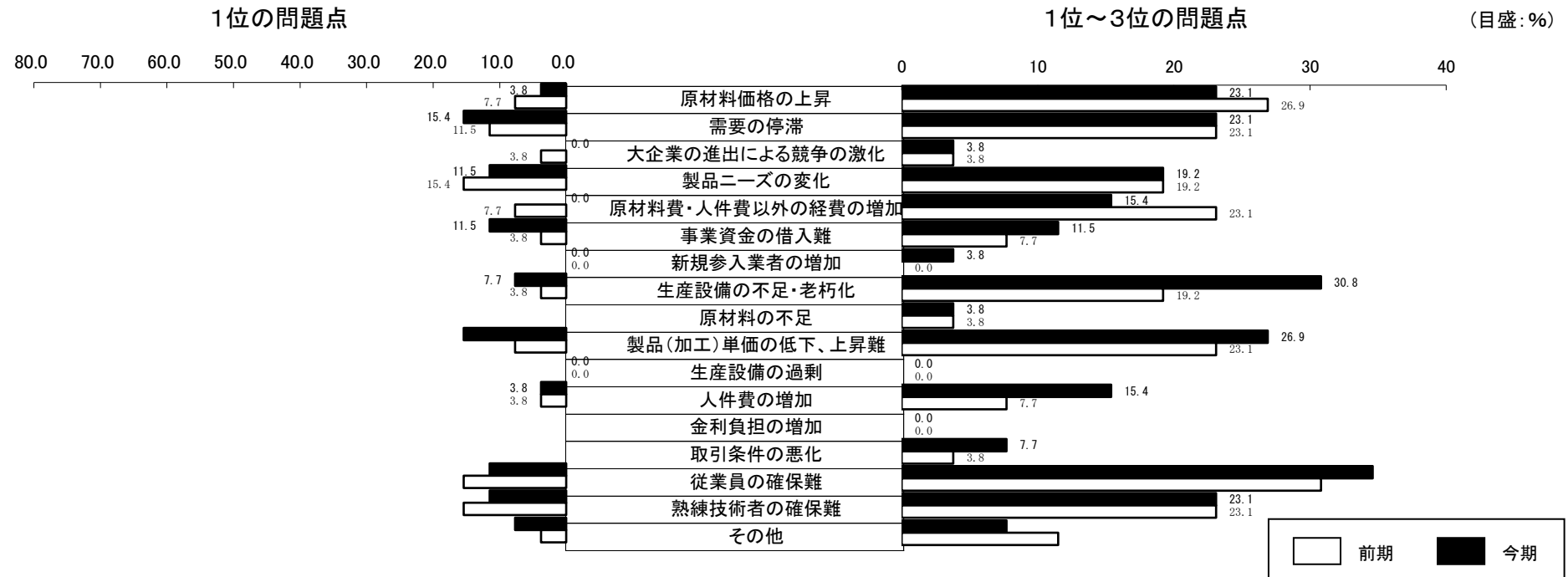


製造業の推移

経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



建設業の推移

売上高

<今 期>



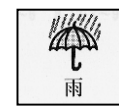
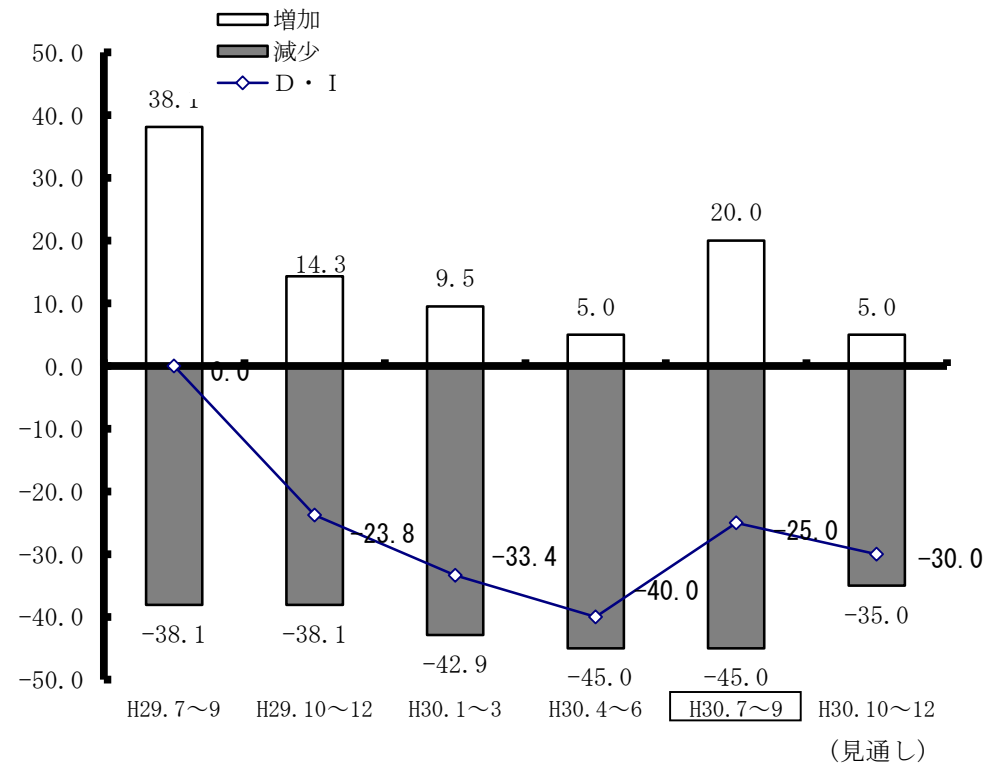
<来期見通し>



今期は、売上高が減少した企業の割合は横ばいだったものの、3期連続して減少していた売上高増加企業の割合が大幅に増加したことにより、売上高D・Iは増加に転じ、15.0ポイント増加して△25.0まで回復しました。業況天気図も雨から曇へと変化しています。

来期は、売上高の減少を予想する企業の割合が減少するものの、売上高の増加を予想する企業の割合が大幅に減少することから、売上高D・Iは再び減少に転じ、マイナス幅が拡大する見通しです。

※建設業の売上高は完成工事高



建設業の推移

採算

<今 期>

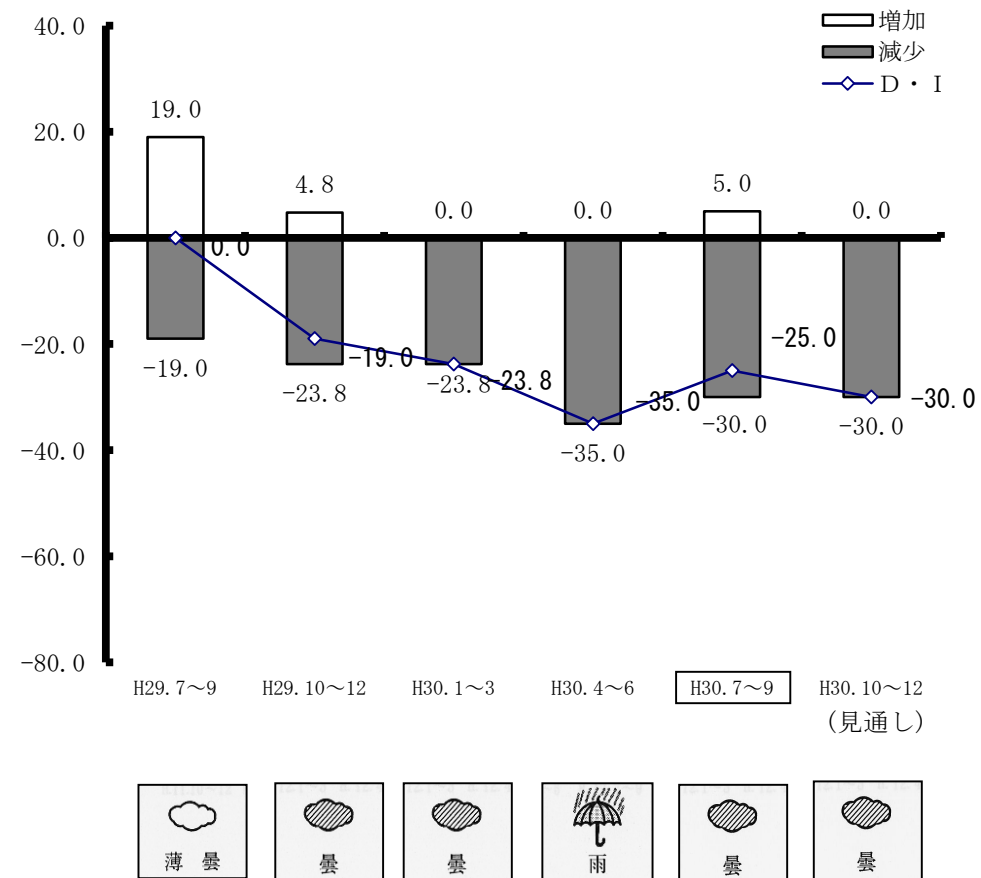


<来期見通し>



今期の採算D・Iは、採算の好転を挙げた企業の割合が5.0ポイント増加し、また、採算が悪化した企業の割合が5.0ポイント減少したため、3期連続して減少していた採算D・Iは増加に転じ、10.0ポイント増加して、△25.0まで回復しました。業況天気図も雨から曇へと変化しています。

来期は、採算の好転を予想する企業割合が減少して0.0となり、採算の悪化を予想する企業が横ばいとなることから採算D・Iは減少する見通しです。



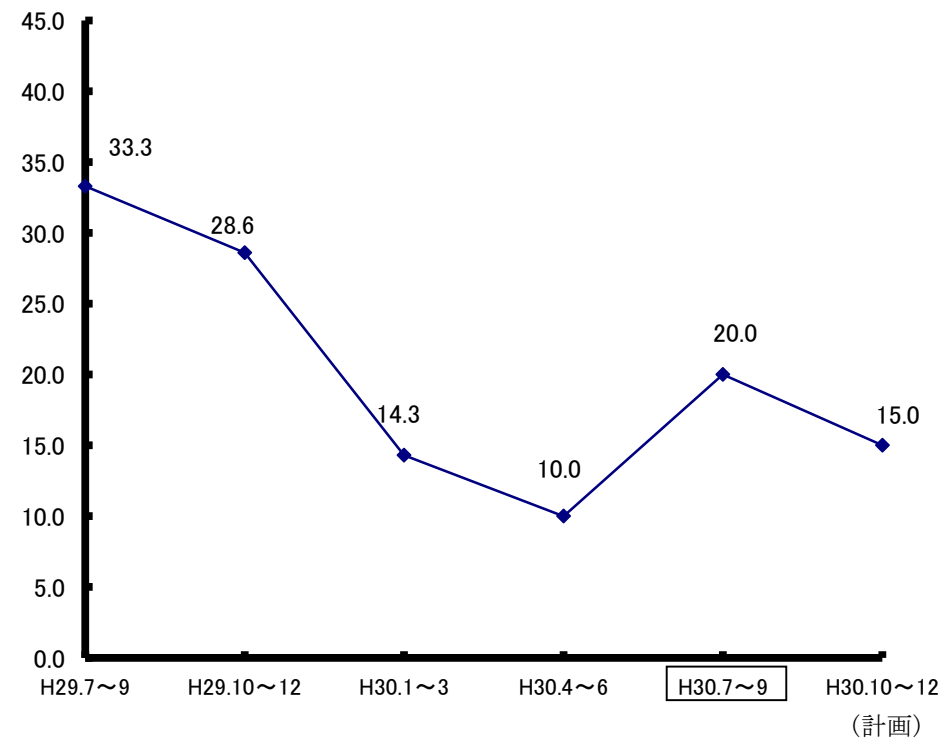
建設業の推移

設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、4期連続して減少していましたが、今期は増加に転じ、20.0まで増加しました。

来期は、設備投資を予定する企業数の割合は減少することが見込まれ、15.0にとどまる見通しです。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

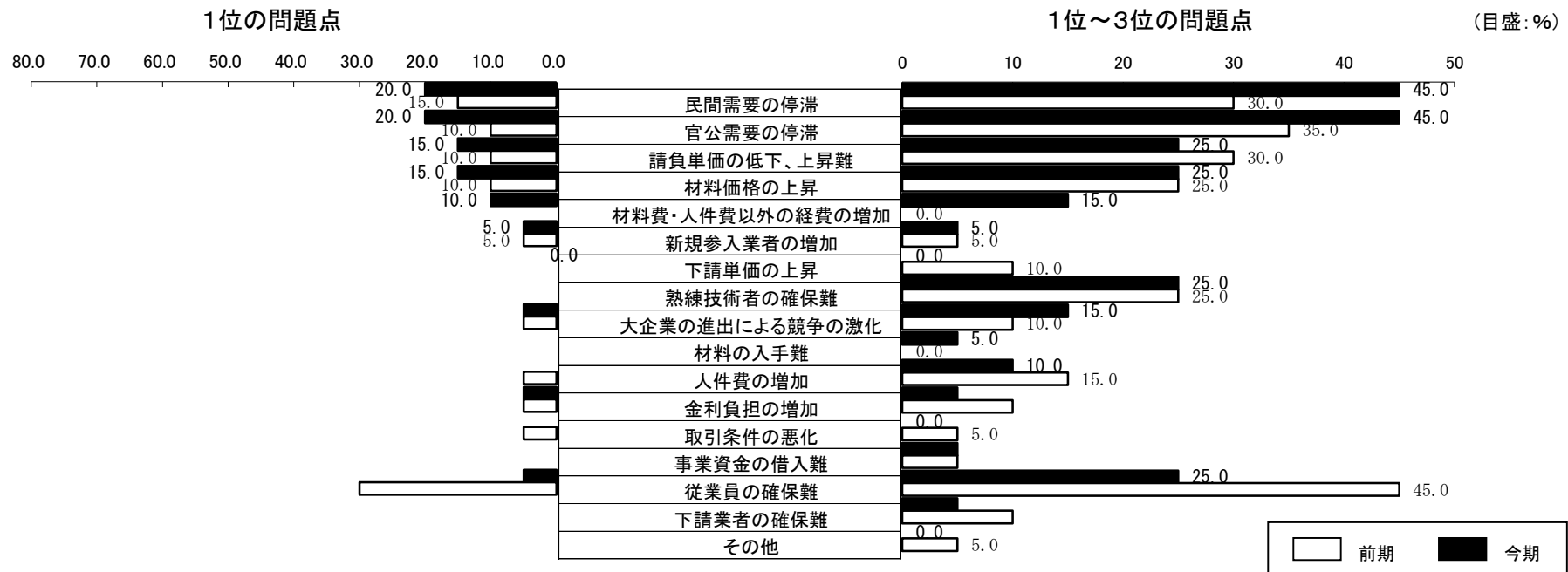


建設業の推移

経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



小 売 業 の 推 移

売 上 高

<今 期>

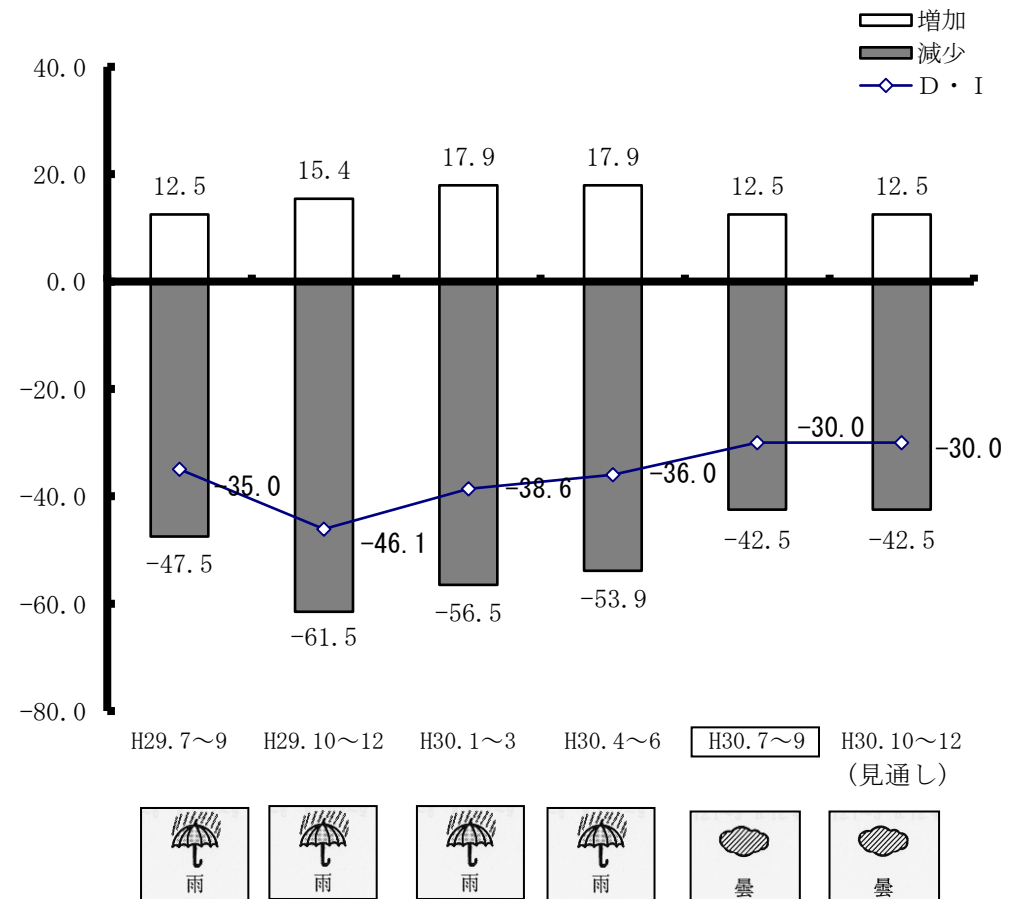


<来期見通し>



今期は、増加傾向にあった売上高増加企業の割合が減少に転じたものの、売上高減少企業の割合が大幅に減少したことにより、売上高D・Iは6.0ポイント増加し、△30.0となりました。景況天気図も雨から曇へと変化しました。

来期は、売上高減少を予想する企業の割合、売上高増加を予想する企業割合が共に変化しないことが予想され、売上高D・Iは横ばいとなる見通しです。



小 売 業 の 推 移

採 算

<今 期>

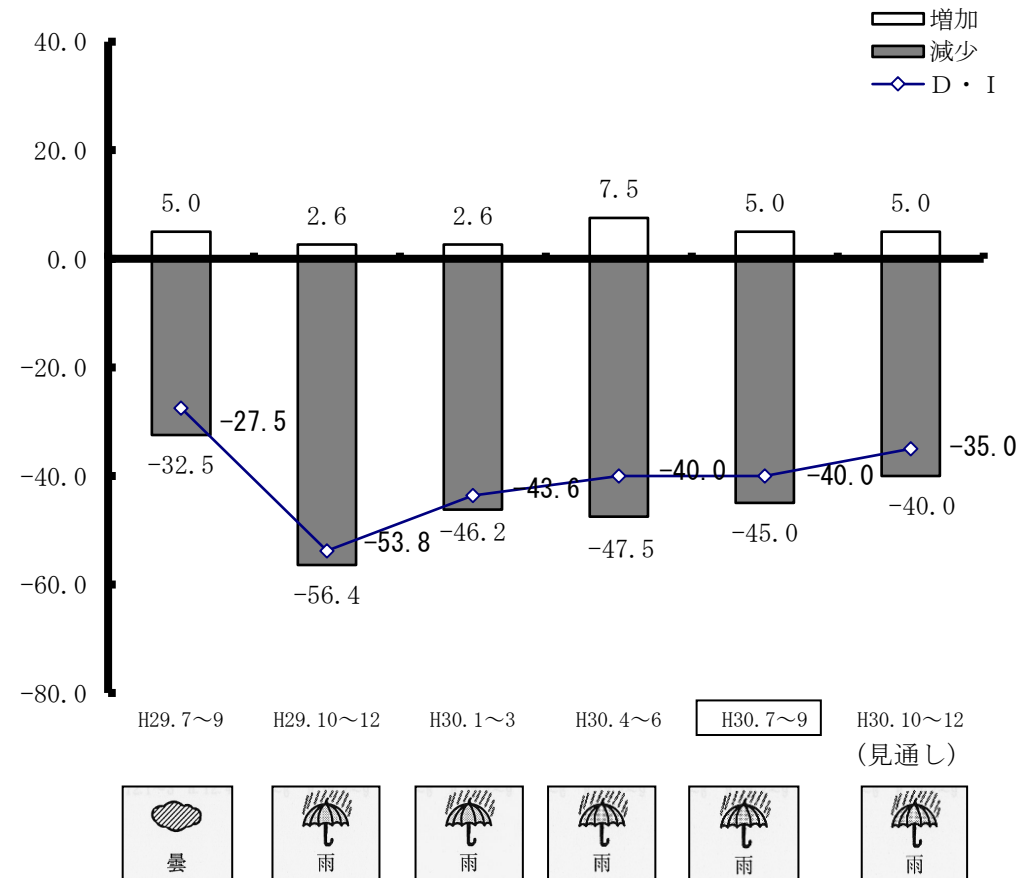


<来期見通し>



今期は、採算が好転した企業の割合が2.5ポイント減少したものの、採算が悪化した企業の割合も2.5ポイント減少したため、採算D・Iは横ばいの40.0となりました。

来期は、採算の好転を予想する企業割合は今期と変わらず、採算の悪化を予想する企業割合が減少するため、マイナス幅は縮小し、採算D・Iは△35.0まで上昇する見通しです。



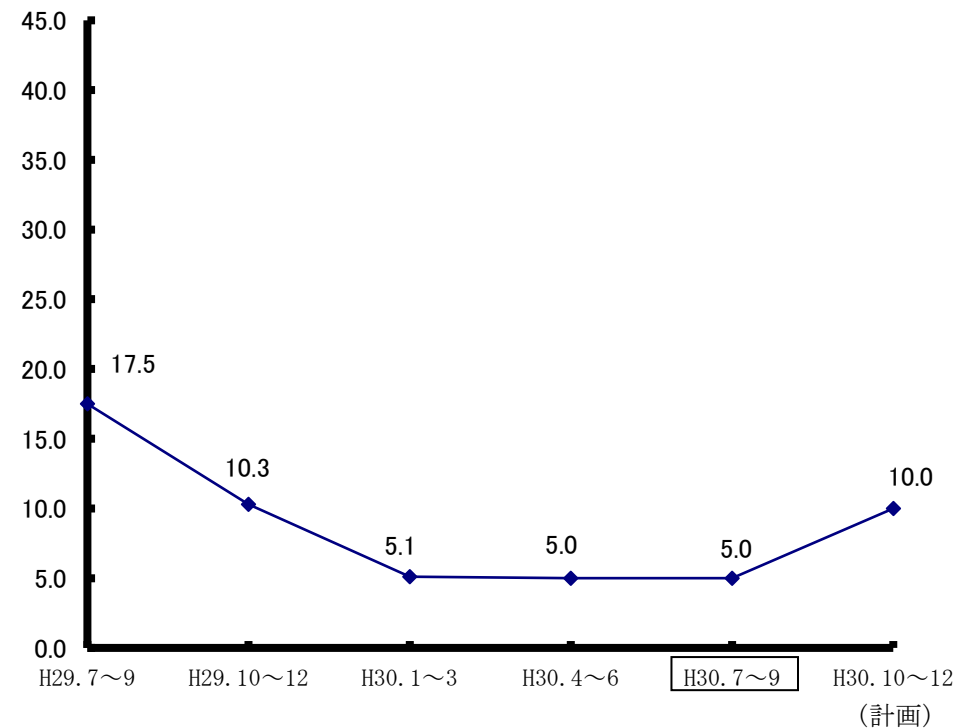
小 売 業 の 推 移

設 備 投 資

今期、設備投資を実施した企業数の割合は、前期と横ばいの5.0となり、2期連続して低い水準にとどまりました。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合は10.0まで増加すると見込まれています。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

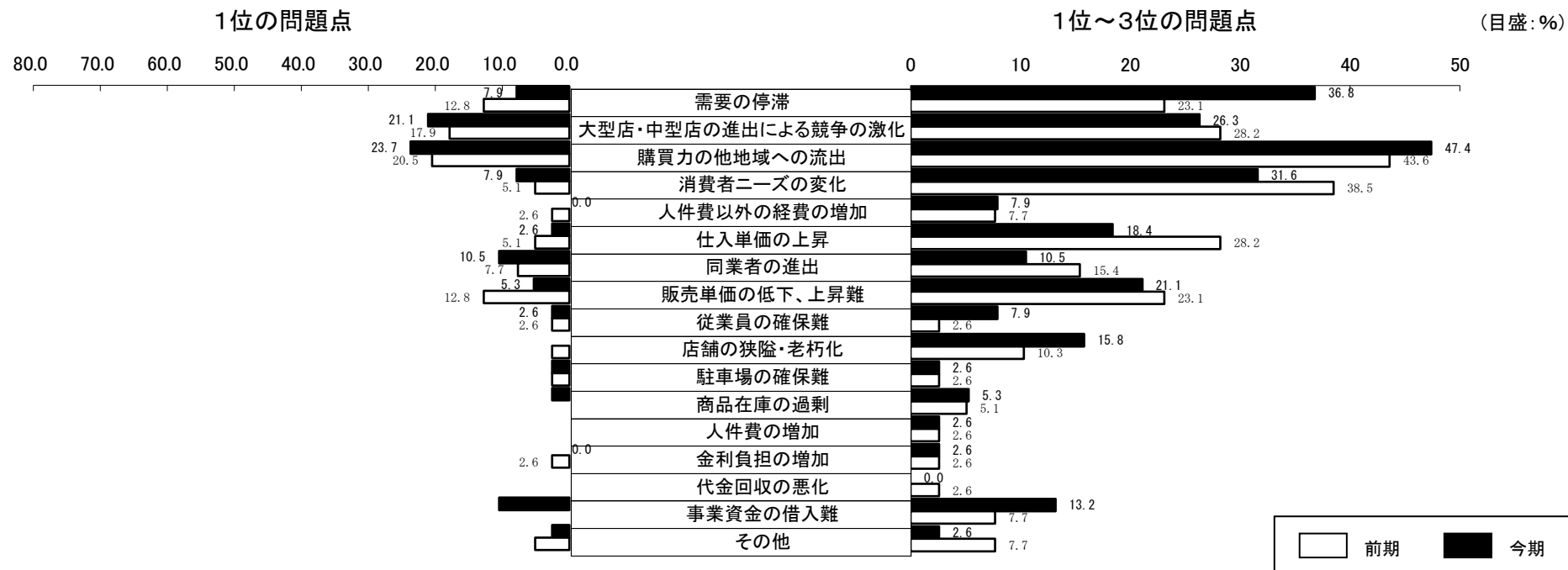


小 売 業 の 推 移

経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



サービス業の推移

売上高

<今 期>

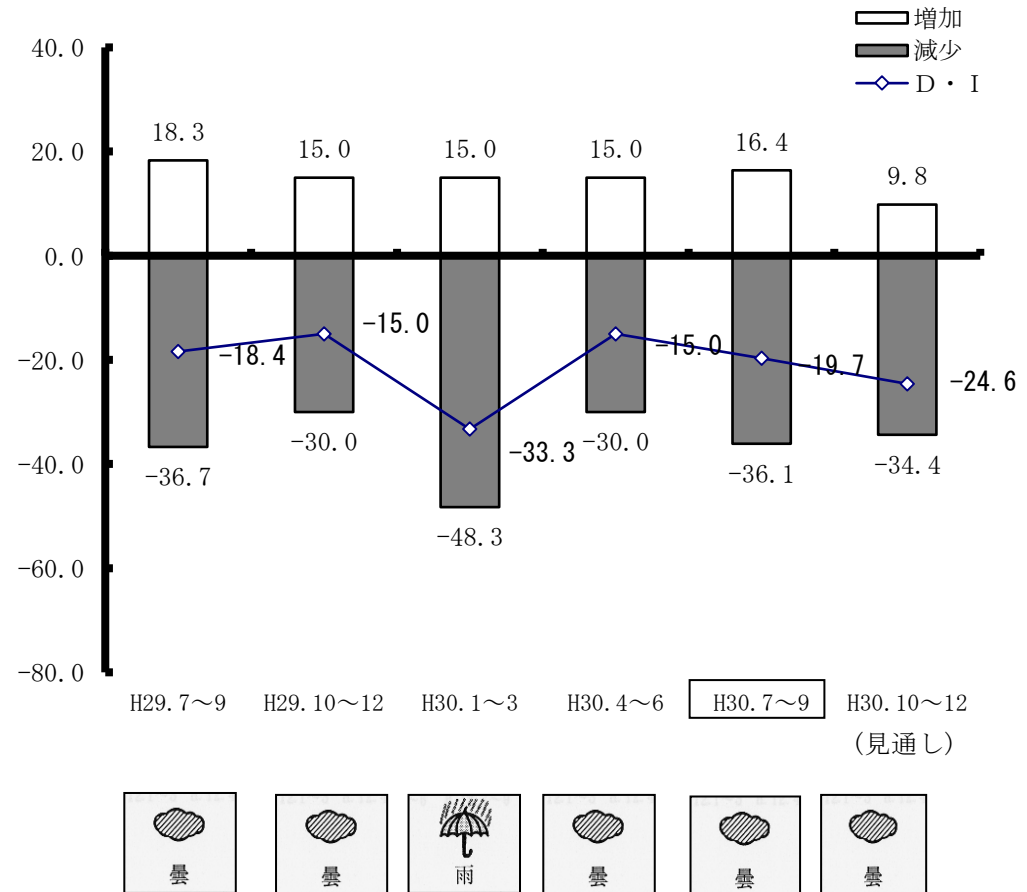


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合は僅かに増加したものの、前期減少していた売上高減少企業の割合が6.1ポイント増加したため、売上高D・Iは4.7ポイント減少し、△19.7まで低下しました。

来期は、売上高減少を予想する企業の割合は僅かに減少するものの、売上高増加を予想する企業の割合も減少することが見込まれることから、売上高D・Iは今期に引き続き減少し、△24.6となる見通しです。



サービス業の推移

採算

<今 期>

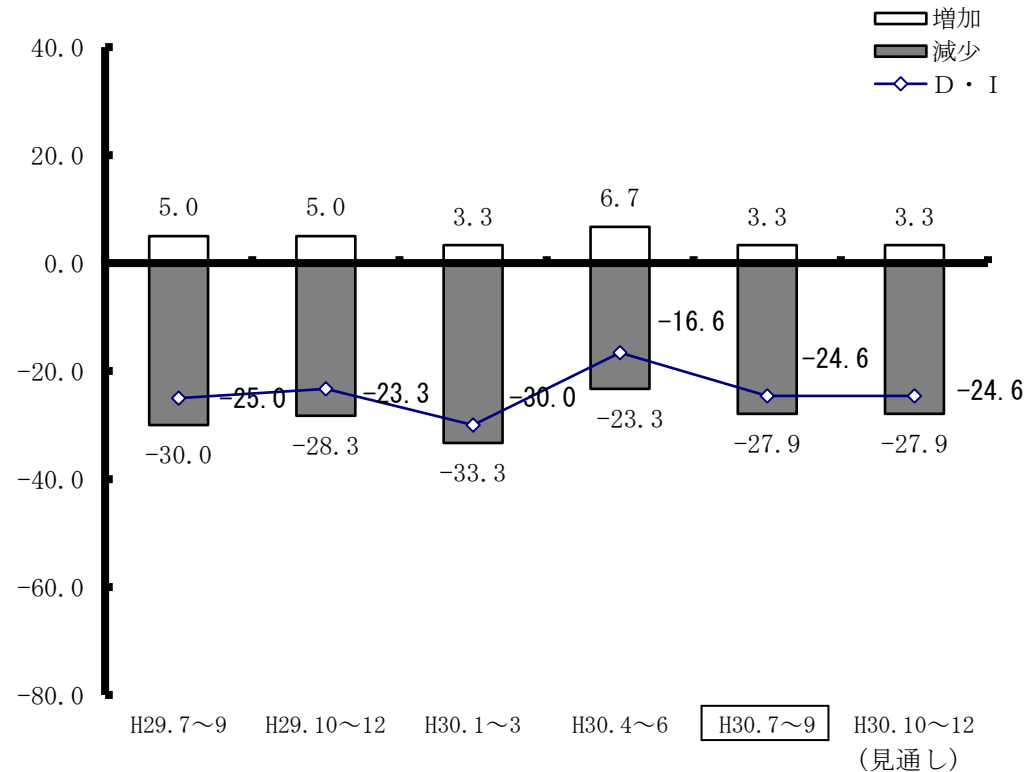


<来期見通し>



今期は、採算が好転した企業割合が3.4ポイント減少した半面、採算が悪化した企業割合が4.6ポイント増加したことから、採算D・Iは8.0ポイント減少して△24.6まで悪化しました。

来期は、採算の好転を予想する企業割合、採算の悪化を予想する企業割合ともに変化がなく、採算D・Iは横ばいとなる見通しです。

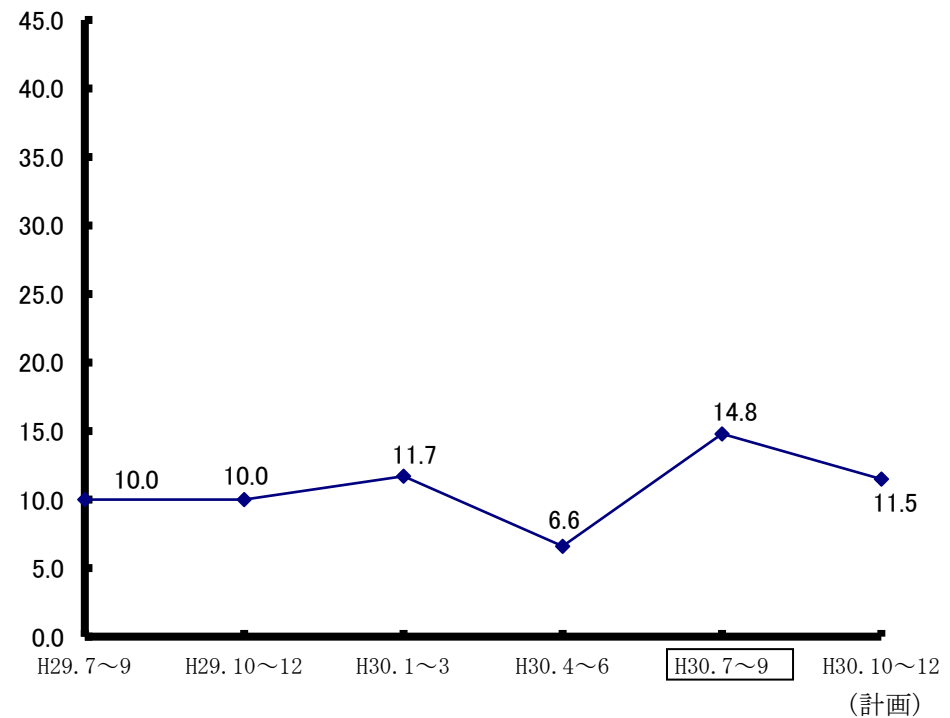


設備投資

今期は、設備投資を実施した企業数の割合は大幅に増加し、14.8まで上昇しました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は、再び減少に転じることが予想され、11.5まで減少する見通しです。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

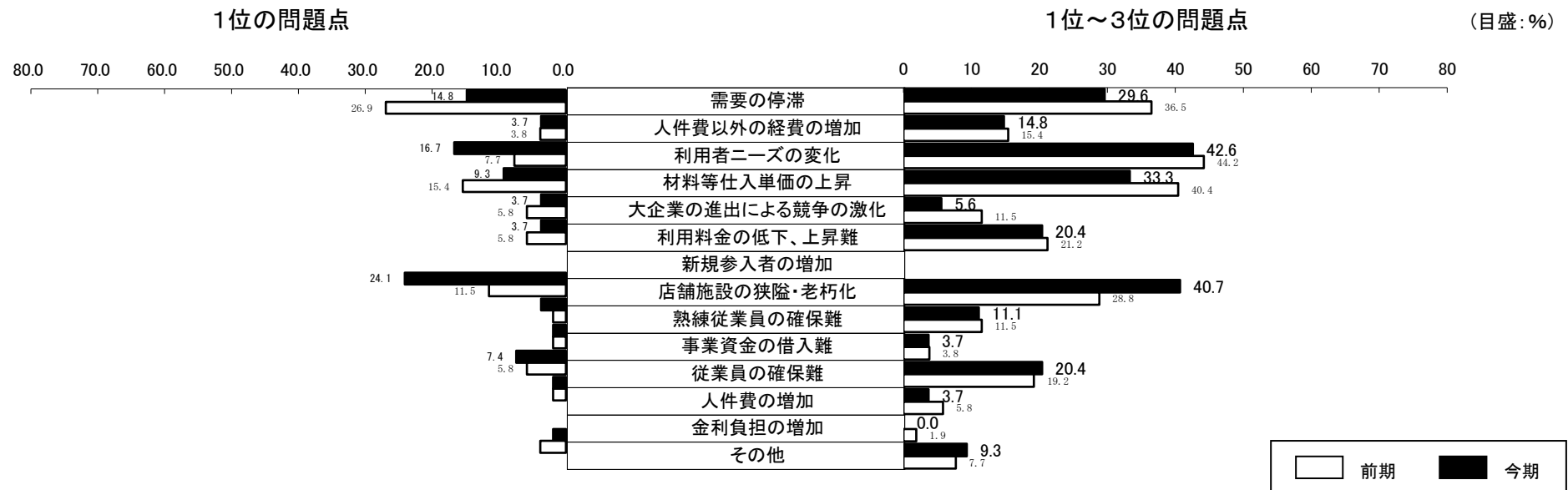


サービス業の推移

経営上の問題点

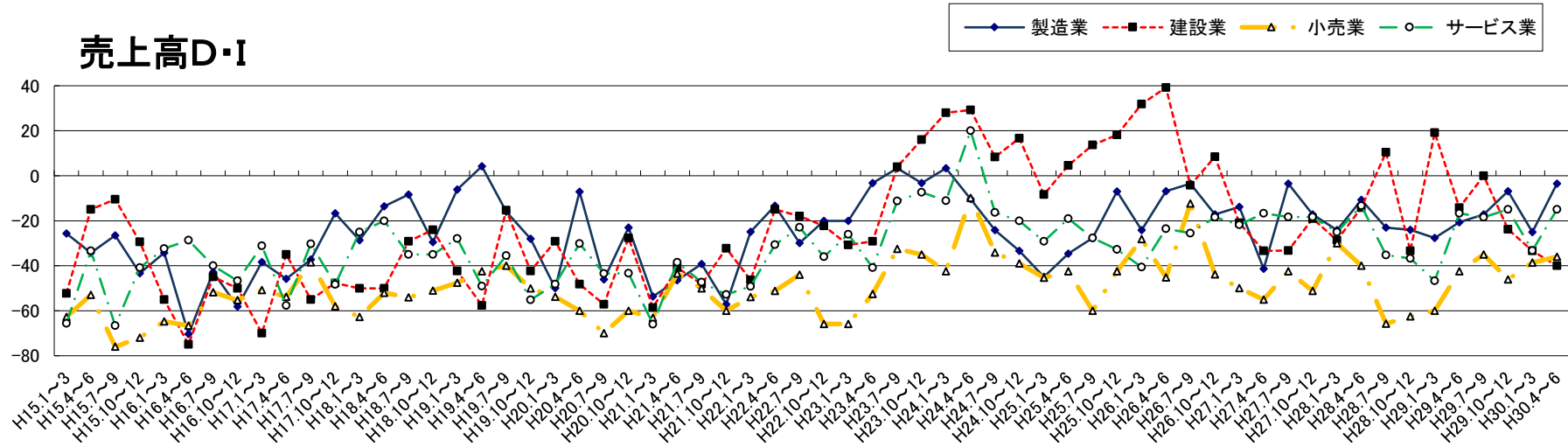
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

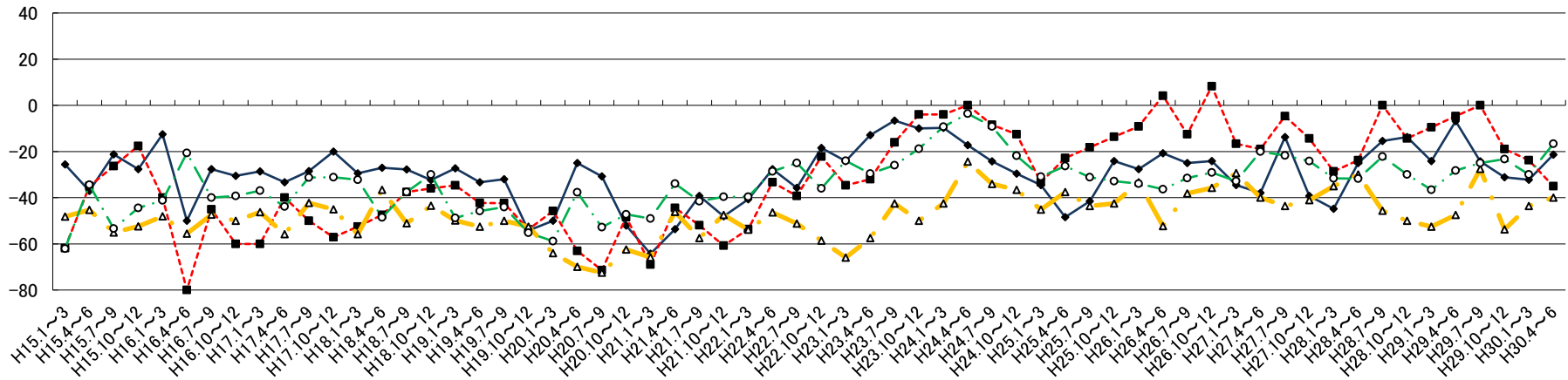


全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)

売上高D・I



採算D・I



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 遠野、二戸市、雫石、岩手町、紫波町
(商工会名) 前沢、金ヶ崎町、田野畑村、普代、九戸村
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調 査 対 象 期 間 平成30年7月～9月を対象とし、調査時点は平成30年9月1日としました。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

業種 \ 項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)	29 (19.3)	29 (19.3)	100.0
建 設 業	20 (13.3)	20 (13.3)	100.0
小 売 業	40 (26.7)	40 (26.7)	100.0
サ ー ビ ス 業	61 (40.7)	61 (40.7)	100.0
	150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。